

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 水・1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生体の機能:クスリとの賢い付き合い方/ (Basic Human Physiology:The wisdom of medicine)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 担当教員:中嶋 幹郎 /Eメールアドレス:mikirou@nagasaki-u.ac.jp /研究室:薬学部2階 病院薬学研究室 /TEL:819-2459 /オフィシアワー: 月～金 9:00～13:00 ただし事前にメール等で予約を取ること			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい:薬学部の医療・臨床薬学分野には薬剤学という学問・研究領域がある。これは、一般的に医薬品(クスリ)を実際に生体に適用する場合に考慮すべき情報に関する問題を取り扱う分野である。しかし、薬剤学はいわゆる「クスリの学問」でもあり、クスリに関する様々な分野の研究領域を包括する場合もある。したがって、薬剤学は「薬学部」独自の学問・研究領域と位置付けられている。また、薬剤学は医療職である薬剤師の専門性の基盤となっている学問・研究領域でもある。本授業では、毎回身近なクスリを取り上げ、生体との関係からわかりやすく解説する。このことにより、大学生の皆さんに知ってもらいたいクスリや健康・衛生管理に関する正しい知識を身につけてもらうことがねらいである。</p> <p>授業方法:教科書は用いず授業計画にそってプリント資料で講義する。</p> <p>授業到達目標:クスリや健康・衛生管理に関する正しい知識を理解し、説明できるようにする。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要):毎回身近なクスリや健康問題を取り上げ、プリント資料を用いて生体との関係から解説を行う。授業毎に理解した内容を整理して課題レポートとして提出することで、大学生として正しく知ってもらいたいクスリや健康・衛生管理に関する知識を身につけさせようとするものである。</p> <p>第1回 クスリとは?を解説し、化学物質としてのクスリと生体との関係を説明できるようにする。</p> <p>第2回 クスリの分類、作用発現、情報について解説し、クスリの種類や情報を整理して説明できるようにする。</p> <p>第3回 クスリの使い方と主作用・副作用との関係について解説し、クスリの使用目的と適用法との関係を説明できるようにする。</p> <p>第4回 クスリの剤形について解説し、クスリの使用目的と適用法との関係を詳しく理解し、説明できるようにする。</p> <p>第5回 クスリの生体での動き方について解説し、クスリの作用発現と生体機能との関係を説明できるようにする。</p> <p>第6回 クスリの作用発現に影響を及ぼす要因(クスリの飲み合せ等)について解説し、クスリの作用発現と生体機能との関係を詳しく理解し、説明できるようにする。</p> <p>第7回 クスリの情報文章の読み方を解説し、クスリの情報文章の基礎を読解できるようにする。</p> <p>第8回 妊娠とクスリとの関係を解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。</p> <p>第9回 不眠とクスリとの関係を解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。</p> <p>第10回 嗜好品とクスリとの関係を解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。</p> <p>第11回 クスリの乱用問題について解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。</p> <p>第12回 クスリの有害作用について解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。</p> <p>第13回 疾病とクスリについて解説し、薬物治療の有用性や危険性を正しく理解し、説明できるようにする。(1)</p> <p>第14回 疾病とクスリについて解説し、薬物治療の有用性や危険性を正しく理解し、説明できるようにする。(2)</p> <p>第15回 各自のテーマにおける課題レポートをまとめる。</p>			
キーワード	クスリ、情報、生命、医療、治療、健康、衛生、医歯薬学。		
教科書・教材・参考書	教科書は用いず授業計画にそって配布するプリント資料を用いる。		
成績評価の方法・基準等	○毎授業時の課題レポートに対する積極的な取組状況 50%、期末時の各自のテーマにおける課題レポートに対する積極的な取組状況 50%。 授業内容を把握した上で、自分の意見や感想を多く述べるができるかを評価の基準とする。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	一般教育。		
備考(準備学習等)	特になし。		